

高齢者等ごみ出し支援について

1. 実証実験概要

(1) 目的

高齢者等ごみ出し支援とは、ごみを出すことが困難な高齢者や障がい者等のために、ごみ出しの手伝い及びごみが出ていなかった場合に声かけを行うことで、安否確認も行うものである。

(2) 支援対象

自らごみ集積所にごみを出すことが困難であり、次のいずれかに該当する者。

①ひとり暮らしで、次のア～エのいずれかに該当する者	ア 介護保険における要介護1～5の認定を受けている者
	イ 身体障害者手帳2級以上（視覚及び肢体不自由障害者は3級以上）の障害のある者
	ウ 療育手帳所持者の中で最重度、重度の者
	エ 精神障害者保健福祉手帳1級の障害のある者
②①のア～エのいずれかに該当する者で、その同居者も全員が①のア～エのいずれかに該当する者	
③その他市長が必要と認める者	

(2) 対象者に対するアンケート及びヒアリング結果

①利用世帯へのアンケート

今後も利用したい 100% (7/7)	直接支援型で実施したい	100% (7/7)
	コミュニティ支援型で実施したい	0% (0/7)
今後は利用しない 0% (0/7)		

②対象者や自治会、現場職員等へのヒアリング

	メリット	デメリット
直接支援型	<ul style="list-style-type: none"> ・集積所ではなく、戸別収集のため、出されるごみが比較的綺麗 ・自治会にかかる負担が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションでは廊下にごみを置いておくことが難しい
コミュニティ支援型	<ul style="list-style-type: none"> ・収集方法に関して、直接支援型では玄関前だが、コミュニティ支援型では、協力者によっては家の中までごみを取りに来てもらえる 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力者が見つかりにくい ・協力者が拘束されることや他の人の面倒まで見ることに抵抗があると感じる人が多い ・毎回利用者の家に行くことが困難 ・当日の状況によっては急遽利用者の家に行けない可能性がある

2. 実験結果

(1) 各支援事の参加率

支援方法	自治会名	対象世帯数	連絡なし	連絡あり	参加	参加率	支援毎の参加率	不参加
直接支援型	新田4丁目	21	8	13	5	23.8%	23.3%	8
	湊	9	2	7	※1 2	22.2%		5
コミュニティ支援型	宮久保2丁目	7	3	4	0	0.0%	2.7%	4
	原木	29	10	19	※2 1	3.4%		17
合計		66	23	43	8	12.1%		35

※1 実験開始当初、湊自治会は2世帯利用していたが、1世帯が6月20日から辞退

※2 原木自治会は2世帯利用していたが、例外的に直接支援型で実施していた世帯が1世帯あるため、表記を1としている

(3) 市内全域で実施した場合の予想世帯数

2, 811 (市内全域の対象世帯数) × 23.3% (直接支援型の参加率)
= 約 655 (世帯)